

歌の幼稚園しんぶん〔1〕

平成29年4月30日発行

10周年突入記念特集号

今回の37回目で、10年目に入りました。春は野良が始まったり、体調を崩し易い季節で、開催前に6名の欠席届けがありましたから、多くて35名かなと思っていましたら、本年度の北福地社協の会長さんの埋橋孝志さんと、境の高内さん、東春近の酒井さんの3名の方々が新しく来ていただき、総勢40名で賑やかに10年目のスタートを切ることが出来ました。



40名を前に松浦先生のフルート演奏

思い出しますと、園長が12年前に区長を終え、その後役で社協の会長と衛生自治会の理事をしたことが、始まりでした。社協では、年配の方々を年3回、仙流荘や、みはらしの湯へご案内する行事があり、入浴の合間にみんなで歌を歌ったのが楽しかったものですから、その続きで立ち上げました。

当時、富県の衛生自治会の理事は、北福地だけ2名で、どの地区もその年の長が兼務していましたが、北福地は2名のため、もう1名は、前年の区長がやることに決まっていた。その時の北福地衛生自治会の長が、橋爪隆干さん（愛称セーラ）で



春の花ストックに似合う黒のコードデュロイのジャケットで決めた、いつも楽しくて下さるセーラ

した。理事で顔を合わせるまで、園長とセーラとは全く面識がありませんでした。セーラが長にならなくて、また、セーラがこれからの運営で困った事があり園長宅へ挨拶に見えなかったら、こんな関係は生まれなかったと思います。毎回園児さんを楽しくて下さるセーラの姿も見ることが出来なかったでしょうね。

歌の会も今はセーラの力でもっています。出会いは摩訶不思議なものです（笑）

裏面も見てくださいね

歌の幼稚園しんぶん〔2〕

平成29年4月30日発行

第1回目の思い出

今回で10年目を迎え、園児の皆様にも心から感謝申し上げます。最初は毎月やろうと意気込んでいましたが、1回目が終わった時の疲れようは、生まれて経験したことのない疲れかたでしたので、2回目を開く気持ちがまったく生まれてきませんでした。



開園風景
左端は橋爪
市会議員さん



第1回目の開園風景

そこで相談しました

スタート時のスタッフの田畑久登君(故人)、板山高義君、橋爪隆千君と相談し、春、夏、秋、冬の年4回でゆこうということで決まりました。

第1回目の「開園式」は平成20年4月16日(水)に行われ、38名出席して下さいました。この時は、今のような立派な歌集ではなく、コピーしたもので、銘々にお菓子の袋を配りましたので、お菓子代が6,000円もかかりました。上の写真に写っています方々で、すでに何人かの人がお亡くなりになっています。

第2回目は平成20年7月15日(水)に夏の会が集落センターで行われました。



第2回目で、元気な田畑久登君

この頃は10時から12時までの時間割でした。

振り返りますと、多くの思い出があり書ききれませんので、またお行き会いた時にお話しさせて下さい。

こうして10年も続いてきましたことは、園児の皆様のご協力とスタッフの皆さんの支えでした。

この会を生甲斐にしているよ。なんて言われますと、とても嬉しくて励みになります。園長も同じく皆様と会えるのが生甲斐です。

これからも、20周年を目指して励んでゆきますので、なを一層のご協力をお願いします

次回の夏の歌の会は**7月19日(水)**に園長の森で行います。信濃毎日新聞社様、長野日報社様、いなケーブルテレビ様をお願いして取材していただこうと思っていますの楽しみにしててください、」

10周年記念事業で、ホームページを立ち上げました「歌の幼稚園ふるさと」

で検索して下さい。まだ不十分で、スマホでは見れません。では、元気でね。

裏面も御覧下さい